



稲穂 いなほ

仙南小学校
H30. 1. 23
No. 40

第2回学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。

別紙にて集計結果並びに自由記述に対する回答を報告させていただきます。保護者の皆様の第2回目の評価が第1回目比べて低くなった項目が多かったことが残念ですが、児童の評価が高くなった項目が多かったことを励みに、今後も教職員一丸となって職務を遂行してまいります。

尚、ご不明な点や質問等ございました場合はお知らせください。また、「いつでも学校公開」しておりますので、ご来校の上、子どもたちや学校の様子をご覧ください。お待ちしております。

県学習状況調査より

先週木曜日に町内の校長会があり、教育委員会で集計・分析した町内3小学校の平均(※:3小学校の教科の平均)と中学校の結果をもとに今後の対策等について検討しました。因みに本校の平均は-5.8~+6.4の間にあり、残念ながら合計の平均は町内の平均を下回ります。教科ごとの質問数が4年の国語と理科12問、5年の国語が16問で、それ以外が20問ですので1問分が通過率の5ポイントにあたります。全国学力・学習状況調査も県学習状況調査も基礎・基本を問う内容であることから考えても、児童が興味を持ち意欲的に授業に取り組める授業の展開と家庭学習等での繰り返し学習の定着が重要であると考えます。どうかご家庭での協力もお願いします。

町内3小学校平均		国語	社会	算数	理科
4年	平均通過率	67.9		67.2	62.4
	県平均との差	-5.4		-5	-4.9
5年	平均通過率	58.8	73.3	64.6	73.9
	県平均との差	-1.3	-2.9	-4.1	-4.0
6年	平均通過率	71.3	80.1	70.3	76.1
	県平均との差	-1.1	0.3	0.1	-3.6

ところで、この調査において教科の結果より気になることは、質問紙の中の「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標をもっている」「普段の授業では、自分の考えを発表する機会がよくあると思う」などの項目が県平均よりかなり低いということでした(学年によってばらつきはありますが)。校長会で話し合われる中で、ふと気付いたのが美郷町幼小連携理解推進研修のことでした。

美郷町幼小連携理解推進研修

12年前(合併当初)から小1プロブレム(①集団行動が取れない ②授業中に座ってられない ③先生の話を聞けない等)の解消などを目的として行なわれている研修です。

今年度は「言葉による伝え合いを楽しめる活動を目指して」という共通のテーマのもと、仙南地区の園と小学校は相互理解・交流を進めており、以下のような成果が挙げられています。

にやか園 遊びや活動の中でうまくいかないことがあっても、担任が「言語による伝え合い」を意識して支援に当たることで、子どもたち同士が自分の気持ちや考えを伝え合おうとすることが多くなった。担任が間に入っても、あくまでも子ども同士で解決できるように、子どもたちが話し合うことを職員が待つ姿勢も多くなった。

小学校 授業の中で体験する活動を取り入れながらも、自分が感じたことや考えたこと(内言)を言葉にすること(外言化)で、感覚的に捉えていたことを言語によって客観的・論理的に考えようとする姿勢が育ってきた。そのような学習活動を繰り返すことで、精神的な成長も促され、友だちのよさを認め合うことができるようになった。

この取り組みは5歳児と小学1年生だけのことですが、子どもたちの語彙を増やし、豊かな言語表現力・コミュニケーション力を育てるためには、他の学年にも必要なことであり、家庭・地域・園・学校が、言語環境を意識しながら、連携して子どもたちを育てていく必要があると考えます。

家庭・地域で言語環境を整えるということの中心は、やはり、ゆっくり・じっくりと子どもたちと会話する時間を確保することではないでしょうか。会話の中で、子ども自身のよさを再確認させたり、夢や目標を語り合ったりすることで、自己有用感を持ち、肯定的に自分の将来を見つめ、夢を目指して目標を定め、その実現に向けて子どもたちが進んでいくことを陰から支えるのが我々大人の使命です。

ノーメディアチャレンジデー(仮称)

- テレビ、ビデオ、パソコン、ゲーム、携帯電話等の電源を切り、家族が触れ合う時間をもつ。
- メディアに触れる時間を減らすことにより、家族の触れあいや他の活動に関心を広げる。をねらいとした取り組み。

美郷町のPTA連合会や小・中学校では、左記載のような取り組みができないか検討中です。既に取り組んでおられる御家庭もあることですが、「ご飯を食べている時だけ」など時間を決めて取り組み、会話を増やしてみませんか。